

外国語活動－3（第6学年） 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する事例  
【学習活動の概要】

1 単元名 将来の夢を紹介しよう「英語ノート2※」Lesson 9		
2 単元の目標 職業に関する英語表現に慣れ親しみ、友達と将来の夢について積極的に伝え合おうとするとともに、他国の子どもたちの夢を知り、自分との共通点や文化的・社会的背景などによる相違点に気付く。また、職業を表す語の成り立ちを知り、言葉の面白さに気付く。		
3 評価規準 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・将来の夢について積極的に伝え合っている。 【外国語への慣れ親しみ】 ・職業に関する表現に慣れ親しみ、将来の夢について尋ねたり言ったりしている。 【言語や文化に関する気付き】 ・英語と日本語の職業を表す語彙の成り立ちを学ぶことを通して、言葉の面白さに気付いている。 ・世界の様々な子どもたちの夢と自分の夢の共通点や相違点に気付いている。		
4 教材 「英語ノート2※」Lesson 9をもとに本単元では、「将来の夢」を題材として取り上げ、自分が就きたい職業を紹介し合う活動を行う。その際、事前に児童が将来就きたい職業についてアンケートを取り、それらも含めて様々な職業を表す語彙を取り上げる。なお、第2時は、中学校英語科教員とのティーム・ティーチングによって進めている。		
5 主な学習活動 (1)単元の指導計画（全3時間）		
時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の写真を見てクイズに答える。</li> <li>・自己紹介を聞いて人物当てクイズをする。</li> <li>・職業を表すジェスチャーを見てクイズに答える。</li> <li>・職業を表す語彙について、英語と日本語との共通点や相違点を知る。</li> <li>・職業の語彙を扱ったビンゴ・ゲームをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない言葉があっても、類推しながら聞くようにさせる。</li> <li>・職業を表す語彙について、英語と日本語に規則性があることを見付け、言語の共通性や、言葉の成り立ちの面白さに気付かせる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の語彙を扱ったビンゴ・ゲームをする。</li> <li>・指導者が過去に就きたいと思った職業を当てる。</li> <li>・地域の中学生の将来の夢をビデオで視聴する。</li> <li>・Who am I?クイズをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない言葉があっても、類推しながら聞くようにさせる。</li> <li>・言葉によって、互いの理解が進むことに気付かせる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツを言う。</li> <li>・世界の子どもたちの夢を聞く。</li> <li>・「夢宣言」クイズをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を加えて話すことで、より互いに理解できることに気付かせる。</li> </ul>
(2)本時の学習 目標 職業名やだれの夢かを当てる活動を通して、自分たちの夢について積極的に伝え合おうとする。 本時の展開 ①指導者のやり取りを聞いて職業を当てるビンゴ・ゲームをする。 ②本時のめあてを知る。 ③指導者が過去に就きたかった職業を当てる。 ④地域の中学生が将来の夢を語るビデオを視聴し、内容を理解する。 ⑤ Who am I?クイズをする。指導者が夢の職業に就いた児童の絵を提示し、その絵の描き主になりきって、なりたい理由を話すのを聞いて、それがどの友達かを当てる。 ⑥振り返りをする。		

※「英語ノート」：平成21～23年度文部科学省発行による外国語活動教材より

## 【解説】

### 【指導事項と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第4章外国語活動 第2内容1「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。」の(1)「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。」、(3)に「言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。」、2「日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を図ることができるよう、次の事項について指導する。」の(2)「日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なもの見方や考え方があることに気付くこと。」と、第3指導計画の作成と内容の取扱い2(1)ア「外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定すること。」とを取り上げて指導するものである。

### 【言語活動の充実の工夫】

外国語活動において、各単元に設定されている使用表現等を使って、相手のことを知りたい、自分のことを分かってほしいという活動を設定することが大切である。その際には、児童の発達や興味・関心を踏まえた題材を設定することが求められる。そこで、本単元では、6年生が卒業を間近に控えていることを踏まえ、卒業後の進路や将来就きたい職業、また身近な学級担任が昔どのような夢をもっていたのかを題材とした。

#### ○職業を表す語彙について、英語と日本語との共通点や相違点を知る

児童にクイズを通して紹介した職業を表す語を、語尾が teacher, baseball player, police officer など[ər]で終わる語と、pianist, florist, scientist など[ist]で終わる語とグループ分けして、これらの絵カードを黒板に貼りながら発音を聞かせ、児童に2グループの音の特徴に気付かせる。このように英語には職業を表す語尾が[ər]や[ist]になることから、日本語にも、「教師」「牧師」「消防士」「介護士」「漫画家」「小説家」など、同じような規則性があることに気付かせる。児童は、これらのことから言語の相違性だけでなく共通性や、言葉の成り立ちの面白さを楽しんでいた。

#### ○指導者が過去に就きたいと思ったことのある職業を当てる“Who am I? クイズ”

指導者の過去（小学校6年生時、中学校3年生時、高校3年生時）に就きたかった職業や、本校を卒業した中学生の就きたい職業について、学級担任と中学校英語科教員とのやり取りや、中学生のスピーチビデオを視聴して、類推させる。また、Who am I?クイズでは、事前に各児童の将来就きたい職業とその理由とを描（書）かせておく。その資料をもとに、学級担任がある児童になりきって、将来就きたい職業をその理由とともに、中学校英語科教員の協力を得ながら英語で紹介し、それがどの児童かを当てさせる。これらの活動の題材はいずれも児童にとって身近な学級担任や友達であるからこそ、児童は興味をもって話を聞き、答えていた。



#### ○夢宣言クイズ

代表児童が、自分の就きたい職業に関する絵やヒントを順に提示しながら、自分の夢を友達に推測させる。この場合、就きたい理由については、英語でなくても日本語や写真で表現してもよいことにする。自分の夢を友達の前で宣言することや、友達の夢を聞いて励ましの気持ちを伝えることを通して、温かい人間関係づくりにつなげることができた。

これらの活動を通して、言葉を使ってコミュニケーションを図ることで、相手とかかわる楽しさや、かかわることができた満足感を体験するとともに、言葉は相手との関係をよりよくするためにあることに気付かせることができる。そして、このことがコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成することにつながる。